

選択体育の思い出

校長 武井 正明

今は昔。30年前「選択体育」という科目があった。

岩室中で一緒だった同期の本間謙一先生（現内野中校長）が、珍しく相談があるという。

「武井さん、今度選択体育で『ターゲットバードゴルフ』をやろうと思うんですわ。そこで武井さんにもぜひ力を貸してもらえないかと思ひまして…」

彼は私の空き時間が減るのを気兼ねして、申し訳なさそうに言うのだが、私にとってみればそんなの関係ねえ、興味津々是非やらせてほしいとアシスタントを快諾した。

そしてやってみるとこれが面白い!! バドミントンの羽のようなものを付けたプラスチックのボールをサンドウェッジで打つ。すると全くゴルフの同じ軌道を描く。逆さにした傘の中に入れる。打つ度に人工芝のシートを移動させて球を置いて打つ。

それからふたりは授業前に表の駐車場に出て「教材研究」だ。他の先生から「生徒がソワソワして困る」と苦情が来てやめた。道具は中古クラブを都合して、なんとか整えた。

生徒はほぼ全員が未経験者。そこへ本間先生と私が「模範演技」を見せる。直接傘に「ホールインワン」などしようものなら、国語の授業時にはない大歓声上がる。それに応えて、私もタイガーウッズ張りに拳を突き上げ、雄叫びを上げる。本当に気持ち良かった。

授業は2班に分かれてやった。20人はいた。時間半分でAの最下位とBの最上位を入れ替える。もちろん指導者も参戦する。手加減は一切しない。

そのうち授業開始前の休み時間になると、皆次々とダッシュで体育館に集まり、我先にとネットに向かって黙々と打つ「自主練」を始め、館内に打球音だけが響き渡った。

やがて、降格の危機に立たされた生徒は外の景色を見て「冷ます」姿も見られ、体育館はピンと張り詰めた雰囲気包まれるようになった。

そんなある日。岩室村の偉い人達が偶然来校し、授業の様子を見に体育館を覗いた。

その様子を見たひとりが突然興奮し「これが教育だ!!」大声で叫んで帰っていった。本間先生と私は、ほくそ笑みながら頷き合ったものだ。

そういえば「選択国語」もあった。

内容はドラマ「北の国から」のシナリオ演技。「私は監督、君たちは女優です」なんて始めると、生徒も「ハイ監督っ!!」すっかり女優気取り、真剣そのもの。

私も脚本家の倉本聰になりきって「違うんだなあ、この『…』と『—』の違い、あなた実は全然わかってないでしょ。はいダメやり直し」などと調子に乗って指導したものだ。

その彼女たちもきつともう、君たちの母親世代になっているはず…。憶えてるかなあ。

今はなき「選択教科」が懐かしい。あれ楽しかったよなあ、復活しないかなあ…。